

立正大学 古書資料館通信

Vol.14



『扶桑隱逸伝』巻下「兼好」の図

目次

貞松文庫について（5） A71～A73の資料紹介.....	1 頁
『大乘起信論』の2版種.....	1 頁
『法華經文字声韻音訓篇集』の同版本.....	2 頁
『緇林宝訓』の刊記と日閑旧蔵本.....	3 頁
村上勘兵衛刊行の『起信論疏筆削記』.....	4 頁
『夾註輔教編』同版本の刊記.....	5 頁
『仏説善惡因果經』の旧蔵者.....	6 頁
貞松文庫 簡易目録 A71～73.....	8 頁
注.....	12 頁
表紙資料紹介.....	13 頁



立正大学図書館略史（品川キャンパス）——古書資料館前史として 第14回

立正大学古書資料館専門員 小此木敏明

立正大学開校 150 周年（2022 年）を記念し、2023 年には、本学図書館から『古今善本録—蔵書が伝える図書館 150 年の軌跡—』が刊行されました。その執筆・編集作業に注力していた関係で「古書資料館通信」を休止していましたが、本年度から刊行を再開したいと思います。

前号では、貞松文庫の A86～A89 の資料を紹介し終えました。今号では、A71～A73 の簡易目録を掲載し、いくつかの資料を取り上げて解説したいと思います。

貞松文庫について（5） A71～A73 の資料紹介

貞松文庫の A7 門は仏典を中心とした分類です。A 71～A73 の中には、貴重書として登録されている資料はありません。ですが、以下のように、寛永の刊記を有するものが複数あります。今号では、これらの蔵書について解説していきます。

○寛永 9 年（1632）

A73/29、A73/30 大乘起信論 / 馬鳴菩薩造。1 冊（大）。

○寛永 13 年（1636）

A72/127、A72/128 法華經文字声韻音訓篇集〈法華經音義〉3 卷 / 快倫 撰。3 冊（大）。

○寛永 16 年（1639）

A73/162 緇林宝訓 / [(宋) 扞賢 撰]。1 冊（大）。

○寛永 17 年（1640）

A73/37 起信論疏筆削記 6 卷 / (宋) 子璿 録。6 冊（大）。

○寛永 19 年（1642）

A73/118 夾註輔教編原教要義 6 卷 / (宋) 契嵩 編并註。3 冊（大）。

○寛永 21 年（1644）

A71/60 仏説善悪因果經 1 冊（大）。

『大乘起信論』の 2 版種

まず、A73/29 と A73/30 の『大乘起信論』を見ていきましょう。『大乘起信論』は大乗仏教の概説書です。インドの馬鳴^{めみょう}の著作として伝わっていますが、中国で作られたという説もあります¹。2 点とも、巻首に「馬鳴菩薩造」とあるだけで漢訳者の記載はありませんが、どちらも真諦^{しんたい}（499～569 年）の訳とされる 1 巻本です。

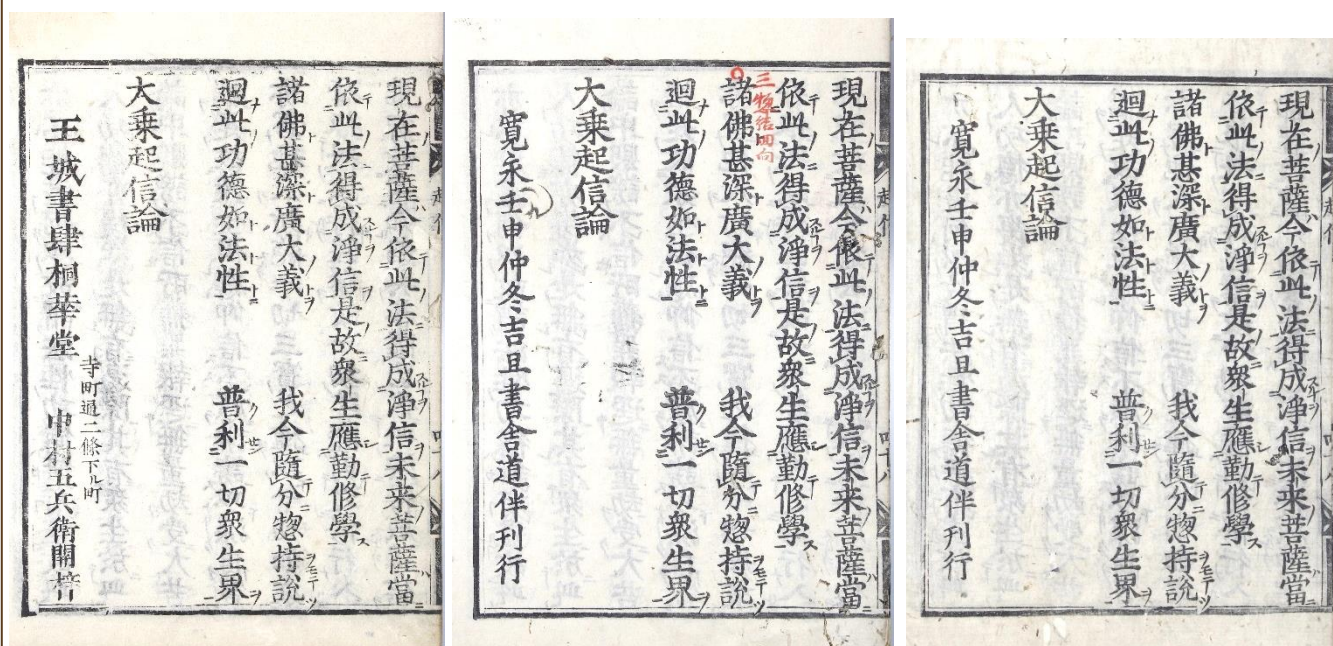
A73/29 と A73/30 は、一見するとまったく同じ版本に見えます。版式や訓点はまったく同じで、どちらも冒頭に中国陳代（557～589 年）の智愷^{ちがい}の序文（序首「起信論序 陽洲智愷造」）、末尾に「寛永壬申仲冬吉旦書舎道伴刊行」の刊記が見られます（図 1 右・中央）。「寛永壬申」は寛永 9 年（1632）に相当し、「道伴」は京都の老舗の書肆である中野道伴を指します。しかし、両本を詳細に見比べると別版本であることが分かります。A73/29 は、A73/30 に比べて全体的に内匡郭の縦が 1～6mm 程度長く（横は長短 0～2mm）、文字に丸みがあります。また、一部の字形には違いが見られます。例えば、図 1（右・中央）の 3 行 3 字目「甚」の異体字の下部分、4 行 14 字目「切」の左部分などです（図 1 下）²。

寛永 9 年版の『大乘起信論』には覆刻本があることが指摘されています³。覆刻とは、元になる版本（底本）の紙を版下にして新たに版本を彫る方法です。新たにできた版本は底本と見分けがつきにくくなりますが、文字の点画に違いが出たりする場合もあります。また、湿らせた紙を版本に貼りつける関係で版本

が縮み、内匡郭の寸法（特に縦）が数ミリ収縮するといわれています⁴。内匡郭の寸法などを考慮すると、A73/29 が寛永 9 年版、A73/30 がその覆刻となりそうですが、先にあげた「甚」や「切」の字形の違いがあるため、確かなことは言えません。より多くの『大乘起信論』を確認した上で、再度検討する必要がありますでしょう。

ちなみに、本通信 9 号で紹介した岩瀬志妙寄贈本（法受山妙厳寺旧蔵書）の中にも『大乘起信論』（A73/31）がありましたが、これは A73/29 と同版で、「寺町通二條下ル町／王城書肆桐華堂 中村五兵衛開梓」の刊記を入れ木した後印本だと推定されます（図 1 左参照）。

図1 刊記



▲A73/31
内匡郭 19.5×14.5cm

* 刊記の上下に入れ木の痕跡がある

▲A73/29
内匡郭 19.5×14.3cm

甚 切

▲A73/30
内匡郭 19.0×14.3cm

甚 切

なお、A73/29 の見返しには「覚超日実」という署名が見られます（図 2）。日実（覚超は字）は、明和 9 年（1772）3 月 17 日に没した蓮永寺の 19 世です。貞松文庫の中には、日実の名が記された資料が他にもいくつか確認できます。

A73/30 には、1 丁表の綴目寄りに「■■（貞真か）日量」という墨印が押されています。文字の右半分が隠れてしまっているため、正確に判読できません。日量の経歴も今のところ不明です。

『法華經文字声韻音訓篇集』の同版本

『法華經文字声韻音訓篇集』は『法華經音義』とも呼ばれます。『法華經音義』とは、『法華經』から字句を抜き出し、その発音や意義を注記した書のことです。ここで扱う A72/127 と A72/128 の 2 点は、播磨国書写山の僧であった快倫^{かいりん}の著作で、慶長 18 年（1618）に刊行された古活字版をもとにして作られた整版本です。2 点ともに、慶長 18 年の原刊語に続き、良恕親王^{りょうじよ}（1574～1643 年）による寛永 13 年

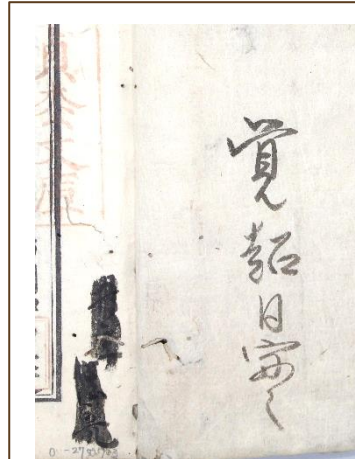


図2
日実の署名

A73/29

※左側の墨で塗り潰されている箇所は、日実より前の所有者の名前（「持主／法亮」）と考えられる。

(1636) の跋(跋末「寛永十三丙子十一月八日／天台沙門二品親王良恕」)、京都の「道意」の刊記が見られます。寛永 13 年は跋文の年号なので、これらが寛永 13 年に刊行されたかどうか確定できませんが、寛永 13 年か、それより少し後に刊行されたと考えられています⁶。

A72/127 と A72/128 は、どちらも同じ版木によって刷られた同版本で、「道意」の刊記が見られる点も共通します。しかし、その刊記を見比べると違いがあることに気づきます(図 3 参照)。2～3 字目を見ると、A72/127 は「落陽」ですが、A72/128 の方は「落」の草冠がなく、「陽」の阜偏^{こざとへん}の画数が足りません。

2 点全体を比較すると、A72/128 の匡郭などに割れが目立つため、先に刷られたのは A72/127 の方だと考えられます。

「陽」の阜偏が欠けているのも、版木が劣化した後に刷られたためでしょう。しかし「落」の草冠は意図的に版木を削った結果だと判断されます。「洛陽」は中国の都市名にちなんだ京都の異称であり、通常「落陽」とは記さないからです。そのため、後印本ではあえて草冠を削り、「洛陽」に修正したのでしょうか。

「洛」の上に不自然な隙間が空いているのもそのためです。

A72/127 各冊の見返しには、蓮永寺 28・29 世の日富が文政 9 年(1826)に記した署名などがあります(第 1・2 冊には髭題目)。A72/128 第 1 冊の表表紙の見返しには「快倫音義三策 以／文化乙丑之孟冬需之／日本笈負羊僧／風狂散人龍(花押)」、裏表紙の見返し「貞松山／日遇(花押)」の書入れが見られます。「日遇」は、日富が文化 10 年(1813)頃から文政 7 年(1824)頃まで用いていた名称です⁷。つまり、A72/127 と A72/128 は、どちらも日富の持ち物だったと考えられます。「文化乙丑」(文化 2 年=1805)の「風狂散人龍」の署名も、日遇以前に用いられた日富の呼称である可能性があります。

『緇林宝訓』の刊記と日閑旧蔵本)

『緇林宝訓』^{しりんほうくん}は、中国宋代の撰賢^{せんけん}が宝祐 3 年(1255)に編纂刊行した書で、禅者らの遺訓を集めて 21 篇としたものです⁸。

ここで扱う A73/162 の刊記には、「寛永十六 己卯 曆三月吉旦／二条通観音町／風月開板」とあります(図 4 右)。書肆名は「風月」のみですが、京都の二条通観音町という所在地から、風月庄(荘)左衛門を指すと推定されます⁹。

寛永期の『緇林宝訓』としては、田原仁左衛門より出された整版本が知られています。古書資料館にその所蔵はありませんが、影印によって刊記を確認すると、「寛永十六 己卯 曆三月吉旦／二条通／鶴屋町 田原仁左衛門刊行」となっています(文字の配置は図 4 左)¹⁰。どちらも「二条通」まではまったく同じです。田原仁左衛門の刊記は、風月庄(荘)左衛門の刊記の 2 行目の「観音町」の部分¹¹を削り、3 行目の「風月開板」部分を入れ木によって「鶴屋町 田原仁左衛門刊行」へと改めたものと考えられます。通常、「〇〇通」と「〇〇町」は続けて記されることがほとんどです。田原の刊記は、修正時の手間の問題なのか「二条通」と「鶴屋町」の間で改行している点に不自然さがあります。田原の刊記の方が早ければ、こういった改行は行わないでしょう。

図3 刊記

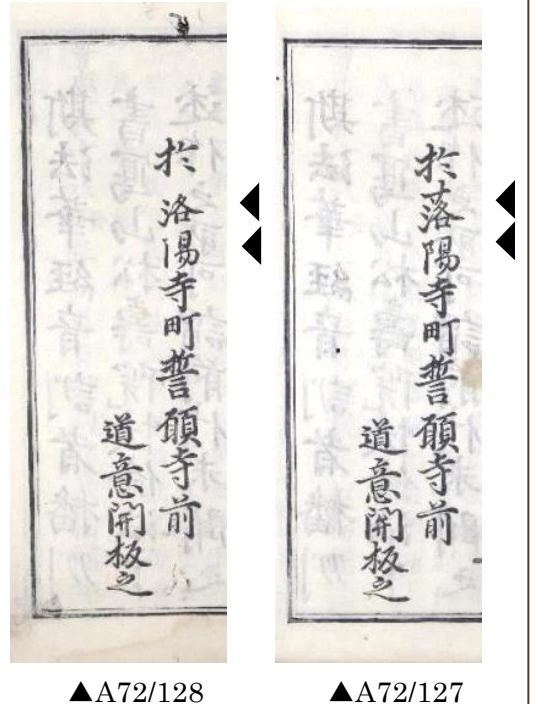
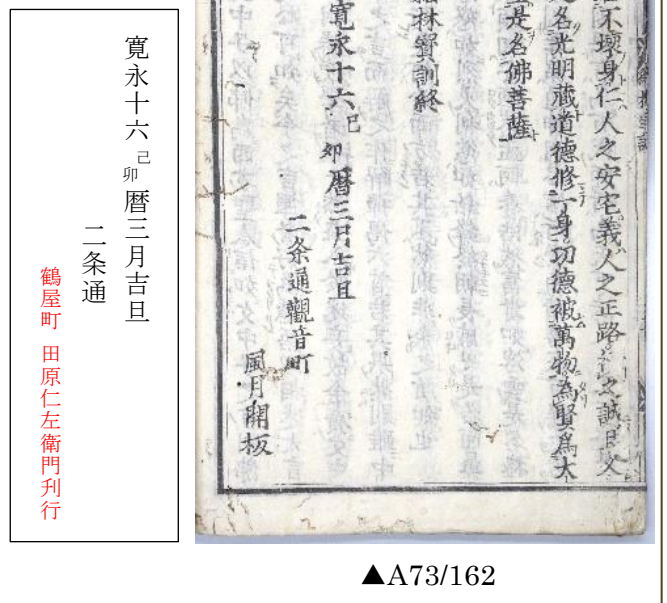
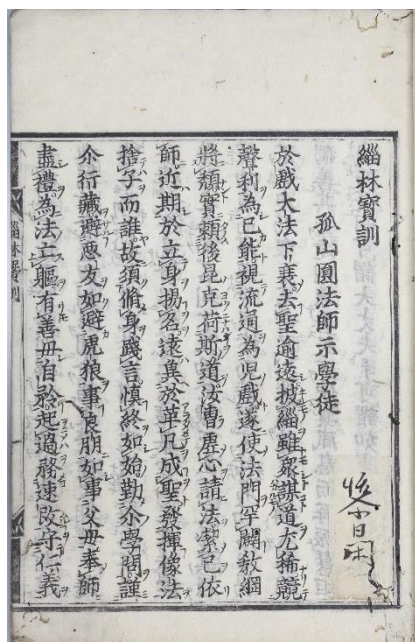


図4 刊記

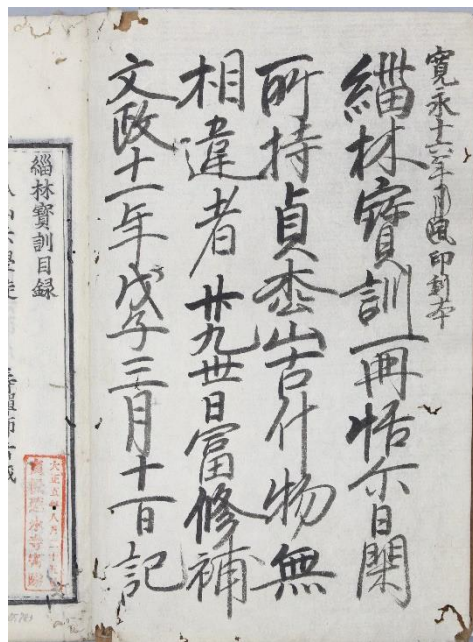


A73/162の見返しには、「寛永十六年月風（「風月」への訂正を示す記号あり）印刻本／緇林寶訓一冊恬尔日閑／所持貞忝山古什物無／相違者廿九世日富修補／文政十一年戊子三月十一日記」という日富の書入れがあります（図5右）。書入れによると、文政11年（1828）3月11日に日富が補修したもので、蓮永寺に古くからある「恬尔日閑」の旧蔵本とのことです。この「修補」は、表紙の改装を指しているようです。「恬尔日閑」の名称は、巻首の下方に見られる貼紙（「恬尔日閑」）にも書かれています（図5左）。

図5



▲巻首と下方の貼紙(A73/162)



▲見返しの日富の書入れ(A73/162)

「恬尔日閑」（「尔」は「爾」の異体字）とは、蓮永寺15世の一玄（源）院日閑のことだと考えられます。字に関しては、「恬尔」でなく「沾爾」とする資料もあるようです¹¹。日閑の没年は元禄3年（1690）のため、寛永16年（1639）版を所持していても矛盾はありません。

〈村上勘兵衛刊行の『起信論疏筆削記』〉

『起信論疏筆削記』の著者は中国北宗の華嚴僧であった子璿（964～1038年）です。子璿の序言には、唐代の「石壁」（石壁伝奥）の著作（『起信論疏義記』6巻）を「筆削」したものと記されています¹²。

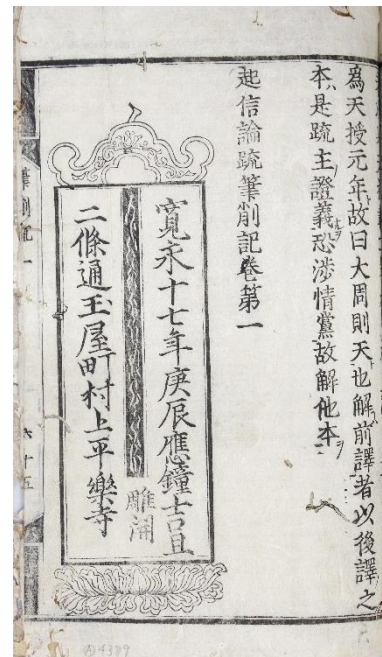
ここで扱うA73/37は6巻6冊本ですが、刊記は巻1の末尾にあります（「寛永十七年庚辰應鐘吉旦／雕開／二條通玉屋町村上平樂寺」）。この刊記には、蓮牌木記と呼ばれる蓮の花の台のような装飾が施されています。「村上平樂寺」は、京都の老舗の書肆である村上勘兵衛を指します。現在も残る平樂寺書店は、この書肆の流れを汲むものです。

古書資料館には、『起信論疏筆削記』の所蔵がほかにもあります。A73/38、A73/39、A73/182がそれです。A73/38（6

図6 刊記



▲A73/38



▲A73/37

巻合 3 冊) は A73/37 と同版の 6 巻本です¹³。両書を比較すると、A73/38 の方が刷りの状態がよく、A73/37 よりも早くに刷られたことが分かります (図 6 参照)。A73/39 (6 巻 6 冊) は、延宝 5 年 (1677) に村上勘兵衛より刊行されたものですが、先の 2 点と異なり、頭注が加えられています。次の A73/182 (20 巻 10 冊) も同じく村上勘兵衛による刊行ですが、他 3 点がすべて 6 巻であるのに対し、巻立てが 20 巻となっています。延宝 8 年 (1680) の道忠の跋文を有していますが頭注はなく、内容は 6 巻本と変わりません。A73/182 の刊行年が跋文と同じく延宝 8 年頃とすれば、寛永 17 年 (1640) から 40 年ほどの間に、村上勘兵衛は複数種類の『起信論疏筆削記』を刊行していたことになります。

『夾註輔教編』同版本の刊記

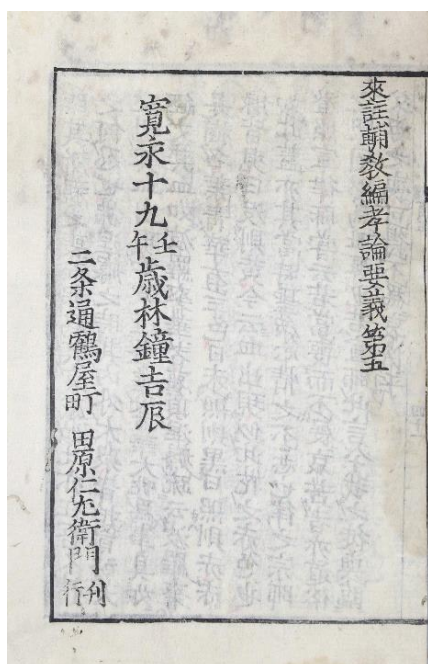
『夾註輔教編』^{きょうちゅう ふきょうへん}は、中国宋代の禅僧であった契嵩^{けいそう} (1007～1072 年) が自らの著作である『輔教編』に注を加えた書で、排仏論に対して仏教と王道の一致を論じた書です¹⁴。

A73/118 の『夾註輔教編』は 6 巻 3 冊で、巻 5 の後に寛永 19 年 (1642) の刊記が見られます。巻 6 の後には春屋妙葩^{しゅんおくみょうは} (1311～1388 年) による観応 2 年 (1351) の原刊語がありますが、これは五山版にあるものをそのまま載せたものです。この寛永 19 年版は五山版の覆刻整版本として知られています¹⁵。

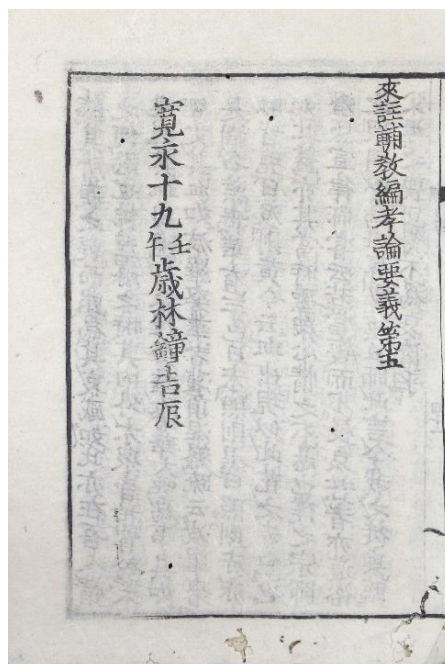
古書資料館には、A73/118 以外にも、寛永 19 年の刊記を持つ『夾註輔教編』が 1 点あります。それが A73/119 (6 巻 6 冊) です。A73/118 とは冊数が異なるものの、2 点は同版の本になります。しかし、刊記の一部には違いが見られます。A73/118 の巻 5 の刊記は「寛永十九 壬午 歳林鐘吉辰」のみで書肆名などが見られません (図 7 右)。その一方で、巻 6 の原刊語の後には「二条鶴屋町 田原仁龙衛門 新刊」という書肆名や所在地の記載が確認できます (図 8 右)。これに対して A73/119 は、巻 5 の刊記が「寛永十九 壬午 歳林鐘吉辰／二条通鶴屋町 田原仁龙衛門 刊行」となっており (図 7 左)、原刊語の後に書肆名などは見られません (図 8 左)。

A73/118 と A73/119 では、A73/119 の方が先に刷られたと考えられます。例えば、図 8 の原刊語 5 行目「明教大師五書要義」の「五」の文字を比較して見ましょう (図 8 下)。A73/118 では、「五」の上部の一面目が欠落しています。これは、版木の劣化がより進んだ状態で A73/118 が刷られたことを意味します。このことを踏まえると、A73/118 は、巻 5 の刊記から所在地や書肆名を削り、その代わりとして、原刊語の後に書肆名を入れ木して刷ったものということになります。A73/118 と A73/119 は版元が同じであるた

図7 巻5の刊記



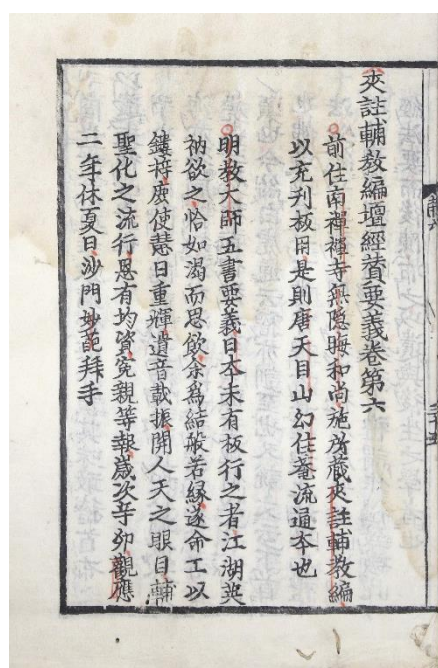
▲A73/119



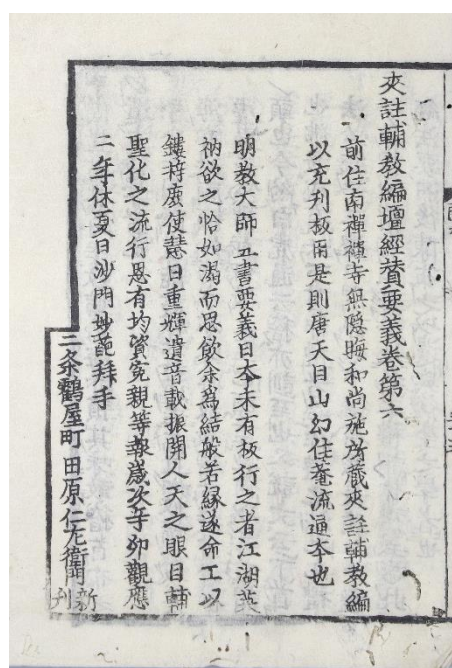
▲A73/118

め、刊記を最終巻の巻末に記載するという意識が働いた可能性があります。

図8 巻6の原刊語



▲A73/119



▲A73/118

五

← 5行5字目「五」 →

五

《『仏説善悪因果経』の旧蔵者》

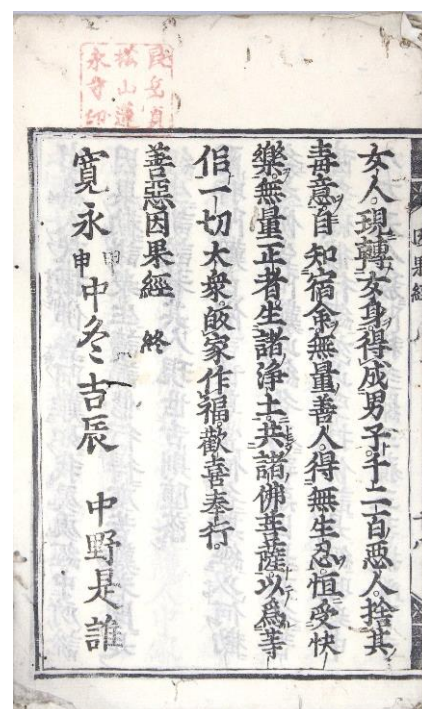
『仏説善悪因果経』は、前世の行いによって現在の果報が決まるという因果応報について説明した経典です。『善悪因果経』『因果経』などとも呼ばれます。偽経の疑いがあり、中国の唐代に書かれたとされています¹⁶。

ここで扱う A71/60 の刊記には「寛永（甲／申）中冬吉辰中野是誰」とあります（図9）。「寛永（甲／申）」は寛永21年（1644）、「中冬」は11月を指します。同年の12月16日には正保に改元されたため、寛永期の版本としては最も遅い部類のものでしょう。中野是誰（1669年没）は、寛永期の京都でもっとも大きな書肆と言われる中野道伴の一族で、寛永17年（1640）から多数の書物を出版していたとされています¹⁷。

『善悪因果経』は広く読まれ、古典文学などにも引用されることが多いですが、同経に載っているとされる「過去の因を知らむと欲はば、其の現在の果を見よ〔以下略〕」という有名な文句は、同経の本文中にないことが指摘されています¹⁸。なお、本通信の簡易目録に掲載されている A71/61 の『善悪因果経』は、漢字仮名交じりに書き下されたもので、漢文体の A71/60 とはまったくの別版です。

A71/60 の裏表紙見返しには、「密厳山／大聖寺什物」とい

図9 刊記



▲A71/60

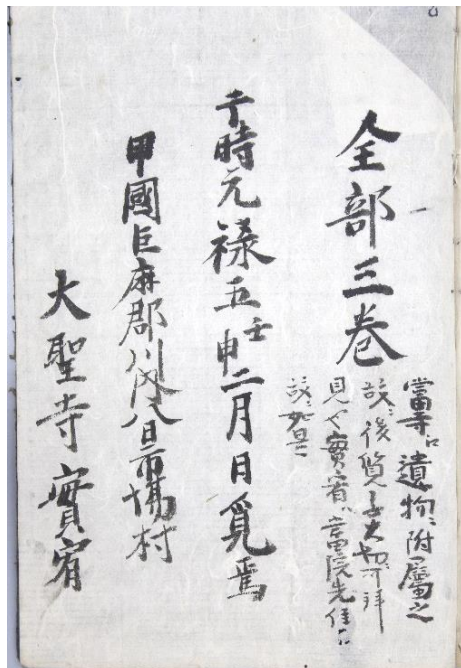
う書入れがあり（図 10 右）、それが縦線で消されています。これは、蓮永寺よりも前の持ち主が書いたものでしょう。この大聖寺は、山梨県南巨摩郡身延町八日市場にあり、三守皇山長光王院の号を持つ真言宗寺院であると推定されます。その根拠としては、A73/161『内外明鑑』（本通信の簡易目録参照）の書入れがあげられます。同書の第 3 冊の裏表紙見返しには、以下のように書かれています（図 10 左）。

全部三卷（當寺江遺物ニ附属之／故ニ後覽子大切ニ可拜／見也實宥ハ當院先住／故ニ如是）／于時元禄五（壬／申）二月日覓焉／甲國巨麻郡川内八日市場村／大聖寺實宥

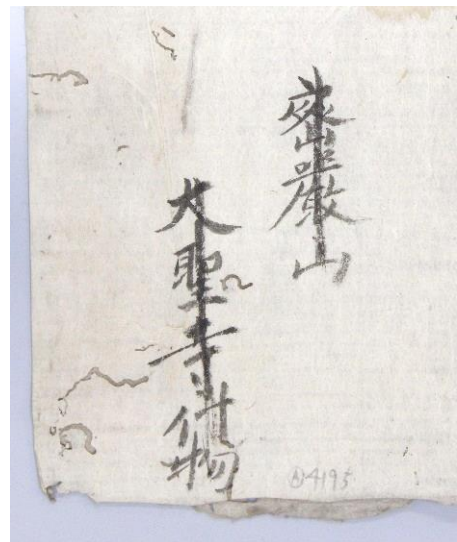
この書入れによると、大聖寺の実宥という人物が『内外明鑑』3 巻を元禄 5 年（1692）2 月に入手したとあります。また、大聖寺の所在地が甲斐国の八日市場村であることも分かります。推定ではありますが、A71/60 の『善悪因果経』も、A73/161 の『内外明鑑』と同じく、蓮永寺の所蔵になる前は同じ八日市場の大聖寺にあった可能性が高いでしょう。なお、「全部三卷」の下の小書き部分は実宥と別人の書入れです。実宥が大聖寺のかつての住職であるから、この『内外明鑑』を大聖寺の什物に属するものとして大切に扱うようにと書かれています。

なお、大聖寺のある身延町八日市場村の近くには、日蓮宗の総本山である身延山久遠寺があります。大聖寺の旧蔵書が蓮永寺に移る過程を想像してみましょう。たとえば、身延山付近で売られていた大聖寺の旧蔵本を久遠寺の僧が購入し、その僧が、後に蓮永寺へ持ち込んだということがあるかもしれません。

図 10



▲A73/161 裏表紙見返しの書入れ



▲A71/60 裏表紙見返しの書入れ

次回の 15 号は、古書資料館開館 10 周年記念号として、貞松文庫とは別の資料を紹介する予定です。この続きは 16 号に掲載します。

〈貞松文庫 簡易目録 A71~73〉

◇版本

- A71/11 勝鬘師子吼一乘大方便方広経 / (劉宋) 求那跋陀羅 訳。1 冊 (大)。[江戸中後期]。【貞】【寄】
- A71/19 (豊山蔵版) 秘密儀軌〈外〉12 巻 / 快道 校。12 冊 (大)。[大和]、辰巳弥兵衛、享和元年—2 年 (1801—1802)。豊山勸学院蔵版。【寄】
- A71/24 菩薩瓔珞本業経 2 巻 / (姚秦) 竺仏念 訳。2 冊 (大)。[江戸中期]。嘉興蔵覆刻加点本。千字文「篤一 (〜二)」。崇禎 2 年 (1629) の原刊記。【貞】【寄】
- A71/32 大乘大方等日蔵経 10 巻 / (隋) 那連提耶舎 訳。5 冊 (大)。[江戸中期]。延宝 4 年 (1676)、知空点。嘉興蔵覆刻加点本か (千字文・原刊記なし)。【貞】【寄】
- A71/33 大乘大方等月蔵経 10 巻 / (隋) 那連提耶舎 訳。5 冊 (大)。[江戸中期]。嘉興蔵覆刻加点本か (千字文・原刊記なし)。【貞】【寄】
- A71/36 文殊師利菩薩諸説宿曜経 2 巻 / (唐) 不空 訳。2 冊 (大)。[紀伊]、経師八左衛門、享保 21 年 (1736) 序刊。無量寿院蔵版。【良】【寄】
- A71/37 仏説父母恩重経 / [亮汰注]。2 冊 (大)。寛文 7 年 (1667) 刊。京、永田調兵衛印。【良】【寄】
- A71/41 大乘本生心地観経 8 巻 / (唐) 般若 等訳。4 冊 (大)。嘉興蔵覆刻加点本 (千字文なし)。万暦 26 年 (1598) の原刊記。刊語「印施大乘本生心地観経…」あり。【寄】
- A71/48 菩薩戒経 1 冊 (大)。京、赤井長兵衛 (他 2 書肆)、天明 7 年 (1787)。小松谷蔵版。【寄】
- A71/49 請觀世音菩薩消伏毒害陀羅尼呪経 / (晋) 竺難提 訳。1 冊 (大)。[江戸中期]。【貞】【寄】
- A71/60** 仏説善悪因果経 1 冊 (大)。[京]、中野是誰、寛永 21 年 (1644)。【良】【寄】
- A71/61 仏説善悪因果経 1 冊 (大)。[江戸前期]。仮名書き。【貞】【寄】
- A71/71 大比丘三千威儀 2 巻 / (漢) 安世高 訳。(日本) 宏源 点釈。2 冊 (大)。延宝 7 年 (1679) 刊。[京]、文台屋太兵衛印。【貞】【寄】
- A71/74 正法華経 10 巻 / (西晋) 竺法護 訳。10 冊 (大)。[江戸前中期]。【貞】【寄】
- A71/82 大方等大集経 30 巻 / (北凉) 曇無讖 訳。15 冊 (大)。延宝 3—4 年 (1675—1676)、知空校点。原刊記「當湖馮洪業募貲讀鑄…」あり。【貞】【寄】
- A72/15 金剛経注〈版心〉 3 巻 (存上・下巻) / (明) 宗泐 注。2 冊。[江戸初期]。康暦 2 年 (1380) の原刊記「重刊臨川寺」。巻上冒頭に落丁あり (19 丁から)。【貞】【寄】
- A72/18 注維摩詰経 10 巻 / (姚秦) 僧肇 撰。5 冊 (大)。京、永田長兵衛・[中野吉右衛門]、貞享 3 年 (1685) 刊。永田調兵衛・村上勘右衛門印。取り合わせ本。「村上勘右衛門」は入れ木。【貞】【寄】
- A72/19 注維摩詰経 10 巻 / (姚秦) 僧肇 撰。10 冊 (大)。[京]、河内屋理兵衛、延宝 6 年 (1678)。【貞】【寄】
- A72/24 遺教経解俗談 / 光謙口授。古雲 筆受。1 冊 (大)。京、野田弥兵衛、元文 3 年 (1738)。【貞】【寄】
- A72/36 孟蘭盆経疏新記 2 巻 / (宋) 元照 述。5 冊 (大)。鼈頭あり。無刊記。【貞】【寄】
- A72/40 仁王経体文抄 3 巻 / 3 冊 (大)。佐右衛門、承応元年 (1652)。【寄】
- A72/42 仁王般若経科註〈中巻尾〉 3 巻 / (日本) 実然 [科注]。3 冊 (大)。[京]、中野小左衛門、寛文 4 年 (1664)。【貞】【寄】
- A72/46 注維摩経会要発蒙鈔 5 巻 / 鳳潭 撰。5 冊 (大)。[京]、井上忠兵衛 (他 2 書肆)、元禄 16 年 (1703)。【貞】【寄】
- A72/50 薬師瑠璃光如来本願功德経直解 3 巻 (存上下) / (清) 靈耀撰。2 冊 (大)。京、林長尾平兵衛、[貞享 3 年 (1686) 序]。巻次は表紙墨書。中に相当する部分欠。【良】【寄】
- A72/61 三部図経〈存 無量寿経 2 巻 ; 仏説観無量寿経〉 / (魏) 康僧鎧 訳〈無量寿経〉。(劉宋) 曇良耶舎 訳

〈観無量寿経〉。3 冊 (大)。[江戸前期]。「仏説阿弥陀経」1 冊欠。【貞】【寄】

A72/62 大仏頂首楞嚴経円通疏〈序〉10 巻 / (元) 惟則 会解。(明) 伝燈 疏。10 冊 (大)。[京]、三木親信・山口富次・吉田元俊、延宝 9 年 (1681)。順治 5-7 年 (1648-1650) の原刊記「嘉興府楞嚴寺経坊余資刻」。

【貞】【寄】

A72/63 楞伽経論疏折衷 4 巻 / 養存述。9 冊 (大)。[京]、中野小左衛門・林氏五郎兵衛、貞享 5 年 (1688)。

【貞】【寄】

A72/65 首楞嚴経義海 30 巻 (巻 23-30 欠) / (宋) 咸輝 排経入注。11 冊 (大)。[江戸前期]。嘉興蔵覆刻加
点本。崇禎 5 年 (1632) の原刊記。版心下の千字文「剪一 (〜十)」「頗一 (〜十)」「牧一 (〜二)」。

【貞】【寄】

A72/70 首楞嚴経疏注経 10 巻 / (宋) 子璿 集。10 冊 (大)。[京]、丁子屋長兵衛・ふや〈婦屋〉伝左衛門・井筒屋六兵衛、貞享 5 年 (1688)。

【貞】【寄】

A72/71 首楞嚴経疏注経 10 巻 / (宋) 子璿 集。10 冊 (大)。[京]、丁子屋長兵衛尉、正保 5 年 (1648) 印。
巻 1 は取り合わせ本。

【貞】【寄】

A72/76 大仏頂首楞嚴経疏解蒙鈔 / 10 巻 首 2 巻 末 8 巻 (巻 5 之 1-2 欠) / (清) 銭謙益 述。(日本) 知
空 倭訓。28 冊 (大)。京、西村九郎右衛門、貞享 2 年 (1685)。

【良】【寄】

A72/78 地藏菩薩本願経手鑑 6 巻 / 真常 集。4 冊 (大)。京、得栄堂二口伊予椽・平楽寺村上勘兵衛、貞享 3
年 (1686)。

【貞】【寄】

A72/81, A72/47 三部図経〈無量寿経 2 巻 ; 仏説観無量寿経 ; 仏説阿弥陀経〉 / (魏) 康僧鎧 訳〈無量寿経〉。

(劉宋) 曇良耶舍 訳〈観無量寿経〉。(姚秦) 鳩摩羅什 訳〈阿弥陀経〉。4 冊 (大)。[江戸中後期]。永享 9 年
(1437) の月呂の序あり。

【貞】【寄】 * 仏説阿弥陀経=A72/47

A72/82 仏語心論 18 巻 / 師鍊〈虎関師鍊〉述。10 冊 (大)。慶安 2 年 (1649)。智徹記「仏語心論口訣」2
巻を附す。

【貞】【寄】

A72/86 思益梵天所問経簡註 4 巻 / (明) 円済 註。(明) 伝新徳 訂正。4 冊 (大)。[江戸前中期]。万暦 32
年 (1604) の原刊記。

【貞】【寄】

A72/87 仏説善悪因果経鈔 2 巻 / [玄貞 述]。2 冊 (大)。[京]、中野氏市左衛門、寛文 6 年 (1666)。

【貞】

A72/90 父母恩重経鈔〈頭書科註恩重経〉2 巻 / 亮汰述。2 冊 (大)。[京]、栗山宇兵衛・中野小左衛門、元
禄 10 年 (1697)。

【良】【寄】

A72/100 般若心経秘鍵 / 遍照金剛〈空海〉撰。単葉装 1 冊 (半)。[江戸前期]。粘葉装の改装本、『十巻章』
のうしか。

【貞】【寄】

A72/102 秘鍵開蔵鈔〈般若心経秘鍵開蔵鈔〉2 巻 / 頼瑜 [著]。2 冊 (大)。[江戸前期]。A72/103 と同版。

【貞】

【貞】【寄】

A72/109 占察善悪業報経疏 2 巻 / (隋) 菩提登 訳。(明) 智旭 述。2 冊 (大)。[京]、長谷川市良兵衛、貞享
元年 (1684)。

【貞】【寄】

A72/110 占察善悪業報経疏 2 巻 / (隋) 菩提登 訳。(明) 智旭 述。2 冊 (大)。[京]、長谷川市良兵衛、貞享
元年 (1684)。取り合わせ本。各巻の巻頭に落丁あり。

【貞】【寄】

A72/111 占察善悪業報経玄義〈尾〉 / [(明) 智旭 述]。1 冊 (大)。貞享元年 (1684) 刊の「占察善悪業報経
疏」と同刻か。

【貞】【寄】

A72/112 占察善悪業報経玄義 / [(明) 智旭 述]。1 冊 (大)。貞享元年 (1684) 刊の「占察善悪業報経疏」と
同刻か。

【貞】【寄】

A72/113 延命地藏経鈔 2 巻 / 亮汰 述。2 冊 (大)。延宝 7 年 (1679) 刊。前川七兵衛印。書肆名は入れ木と
推定。科註あり。

【良】【寄】

- A72/114 冠註地藏經鈔〈柱〉2 卷 / 亮汰 述。[音公 注]。2 冊 (大)。[前川茂右衛門・権兵衛、元禄 9 年 (1696) 跋]。跋丁を欠く。【寄】
- A72/116 妙法蓮華經句解 8 卷 / (宋) 釈聞達 [述]。8 冊 (大)。京、中村五兵衛、寛文 7 年 (1667)。【貞】
【寄】
- A72/121 法華義記 8 卷 / (梁) 法雲 撰。8 冊 (大)。京、長谷川市郎兵衛、元禄 10 年 (1697)。【貞】【寄】
- A72/122 妙法蓮華經玄贊 10 卷 / (唐) 基 撰。10 冊 (大)。[京]、村上勘兵衛、寛文 4 年 (1664)。【貞】【寄】
- A72/123 法華玄論 10 卷 / (隋) 吉藏撰。10 冊 (大)。[京]、中野五郎左衛門、天和 3 年 (1683)。【貞】【寄】
- A72/127 法華經文字声韻音訓篇集〈法華經音義〉3 卷 / 快倫 撰。3 冊 (大)。京、道意、寛永 13 年 (1636) 跋。【貞】【寄】
- A72/128 法華經文字声韻音訓篇集〈法華經音義〉3 卷 / 快倫 撰。3 冊 (大)。京、道意、寛永 13 年 (1636) 跋。【貞】【寄】
- A72/133 数珠功德經鈔 / 亮汰 述。1 冊 (大)。前川庄兵衛、寛文 12 年 (1672)。科注あり。A72/156 とは別版。【貞】【寄】
- A72/135 関蔵知津 44 卷総目 4 卷 (卷 1-4 欠) / (明) 智旭彙輯。(日本) 慈周 [訓点]。18 冊 (大)。江戸、西宮弥兵衛・和泉屋庄治郎、天明 2 年 (1782)。【寄】
- A72/156 数珠功德經鈔 / 亮汰 述。1 冊 (大)。前川庄兵衛、寛文 12 年 (1672)。科注あり。A72/133 とは別版。【貞】【寄】
- A73/13 金七十論解 3 卷 (存 卷上) / 宗朗 選。1 冊 (大)。[京]、一止人〈伊勢屋正三郎〉、[江戸中期]。【寄】
【貞】
- A73/18 立世阿毘曇論 日月行品 / (陳) 真諦 訳。1 冊 (大)。無刊記。科注あり。【寄】
- A73/29 大乘起信論 / 馬鳴菩薩造。1 冊 (大)。[京]、道伴〈中野道伴〉、寛永 9 年 (1632)。【貞】【寄】
- A73/30 大乘起信論 / 馬鳴菩薩造。1 冊 (大)。[京]、道伴〈中野道伴〉、寛永 9 年 (1632)。寛永 9 年版の覆刻本か。【貞】【寄】
- A73/32 大乘起信論疏 2 卷 / (唐) 法蔵 述。(唐) 宗密録。4 冊 (半*)。京、山口市郎兵衛、延宝 7 年 (1679) 印。刊記は入れ木。【寄】 *大本を化粧断したか
- A73/37 起信論疏筆削記 6 卷 / (宋) 子璿 録。6 冊 (大)。京、村上平樂寺、寛永 17 年 (1640)。【貞】【寄】
- A73/40 起信論義記 3 卷 / (唐) 法蔵 撰。5 冊 (大)。京、堤六左衛門、慶安 4 年 (1651)。【貞】【寄】
- A73/62 大乘起信論義記講義 3 卷 / 慧澄 述。守道 録。3 冊 (大)。江戸、和泉屋庄次郎、文久 3 年 (1863)。東叡山蔵版。【寄】
- A73/63 大乘起信論義記講義 3 卷 / 慧澄 述。守道 録。3 冊 (大)。江戸、和泉屋庄次郎、文久 3 年 (1863)。東叡山蔵版。【寄】
- A73/94 大智度論 100 卷 要義条目集 3 卷 / 龍樹菩薩 造、(姚秦) 鳩摩羅什 訳。京、松葉屋市兵衛尉、承応 2 年 (1653)。万暦 19 年 (1591) の原刊記 (目録末尾)。【貞】【寄】
- A73/99 大智度論略鈔 2 卷 / 証真 記。2 冊 (大)。京、中村五兵衛、[江戸中後期]。【貞】【寄】
- A73/106 法華論〈妙法蓮華經優波提舍〉/ 婆藪般豆菩薩 造、(北魏) 菩提流支 訳。1 冊 (大)。[京]、八尾甚四郎友春 (他 法華宗門書堂 3 書肆)、寛文 9 年 (1669) 印。刊記は入れ木。正保 3 年版 (A73/166) の後印本。【貞】【寄】
- A73/107 科註妙法蓮華經論 6 卷 / 6 冊 (大)。[京]、八尾甚四郎友春 (他 法華宗門書堂 3 書肆)、寛文 9 年 (1669) 印。刊記は入れ木。【貞】【寄】
- A73/110 大乘百法明門論解 2 卷 / (唐) 窺基 註解。(明) 普泰 増修。2 冊 (大)。延宝 2 年 (1674)。万暦 18 年 (1590) の原刊記。【貞】【寄】
- A73/118 夾註輔教編原教要義 6 卷 / (宋) 契嵩 編并註。3 冊 (大)。[京]、田原仁左衛門、寛永 19 年 (1642)。

【寄】

- A73/123 護法論 / (宋) 張商英 述。3 冊 (大)。京、村上勘兵衛、延宝 3 年 (1675)。鼈頭あり。【寄】
- A73/127 破邪決 2 卷 / [顯慧 著]。2 冊 (大)。[奈良]、藤屋藤七、宝永 6 年 (1709)。【貞】【寄】
- A73/130 翻刻關邪集 2 卷 / [杞憂道人編]。2 冊 (大)。文久元年 (1861) 跋。【良】
- A73/132 關邪管見録 2 卷 / 杞憂道人輯。2 冊 (大)。文久元年 (1861)。縁山蔵版。【良】
- A73/134 出定後語 2 卷 / 富永仲基 造・訳。2 冊 (大)。大坂、松村九兵衛〈敦賀屋九兵衛〉(他 2 書肆)、文化 2 年 (1805) 補。【寄】
- A73/143 釈教論 / 大我 撰。1 冊 (大)。安永 7 年 (1778) 跋。【貞】【寄】
- A73/144 三教指帰見聞 7 卷 3 冊 (大)。[京]、中野宗左衛門、延宝 5 年 (1677)。【寄】
- A73/148 辨断鬼神二教合璧論〈目〉5 卷 / 存道〈日勇〉撰。5 冊 (大)。京、村上勘定兵衛、[江戸後期印]。【寄】
- A73/150 神社考中邪排佛教論 2 卷 / 寂本 [著]。2 冊 (大)。摂津屋重兵衛、貞享 3 年 (1686)。【貞】
- A73/153 見実三昧 / 隠如覚 述。1 冊 (大)。元禄元年 (1688) 奥書。【貞】【寄】
- A73/154 帰正漫録 / 安井真祐 撰。1 冊 (半)。江戸、和泉屋庄次朗、文化 13 年 (1816) 印。【貞】【寄】
- A73/155 辨道書 / 太宰純〈春台〉撰。1 冊 (大)。江戸、須原屋新兵、享保 20 年 (1735)。【良】【寄】
- A73/161 内外明鑑 3 卷 / [真迢 著]。3 冊 (大)。京、万治 3 年 (1660)。【良】【寄】
- A73/162 緇林宝訓 / [(宋) 扞賢 撰]。1 冊 (大)。京、風月 [庄左衛門]、寛永 16 年 (1639)。【寄】
- A73/166 法華論 / 婆藪般豆菩薩 造、(北魏) 菩提流支 訳。1 冊 (大)。正保 3 年 (1646)。【貞】【寄】
- A73/175 護法資治論 後編 5 卷 / 不染居士〈森儼塾〉著。5 冊 (大)。京、拍屋喜兵衛 (他 3 書肆)、天明 7 年 (1787)。【貞】【寄】
- A73/177 護法資治論 [前編] 5 卷 / 不染居士〈森儼塾〉纂輯。5 冊 (大)。京、麗沢堂〈沢田吉左衛門〉、明和 3 年 (1766)。【貞】【寄】

◇写本

- A71/39 血盆經由来二品并血盆經陀羅尼品 1 冊 (大)。駿河、道印禅高、明和 5 年 (1768) 写。【貞】【寄】
- A71/56 千手千眼觀世音菩薩廣大円満無碍大悲心陀羅尼經 / [(唐) 伽梵達摩訳]。1 冊 (大)。安永 7 年 (1778) 写。【寄】
- A71/72 妙法蓮華經 8 卷 2 冊 (大)。[江戸中後期写]。天保 7 年 (1836) 修補。【寄】
- A71/73 妙法蓮華經 8 卷 4 冊 (特大)。[江戸中後期写]。天保 7 年 (1836) 修補。【寄】

* 基本的に旧漢字・異体字は通行の字体へと変更。「版本」「唐本」の資料は、「古活字版」「近世木活字本」などの記載がないものはすべて整版本の袋綴じ。

* 唐本を除き、冊数の後の (特大) は大本より大きい書型、(大) は大本、(半) は半紙本、(中) は中本、(横中) は横中本を指す。

* 【 】 の記号の意味は以下の通り。【貞】→「貞松文庫」朱印。【貞 (黒)】→「貞松文庫」墨印。【良】→「良岳貞松山蓮永寺印」印。【安】→「貞松山安置」印。【真】→「駿河国府法華道場貞松山蓮永寺真章」印。【寄】→寄贈印。【書】→蓮永寺の印や寄贈印はないが、「貞松文庫」などの書き入れがあるもの。【原】→原簿以外に蓮永寺の寄贈本である情報がないもの。

* 「嘉興蔵覆刻」については、野沢佳美「江戸時代における明版嘉興蔵輸入の影響について」(『立正大学東洋史論集』13、2001 年 9 月)、50-51 頁の表を参照。

注

1. 鎌田茂雄〔ほか〕編『大蔵経全解説大事典』(雄山閣、1998 年)、「大乘起信論」(山本和彦項目執筆)参照。
2. 「甚」の字形については、44 丁表 4 行 8 文字目、47 丁表 6 行 5 文字目にも同様の違いがある。
3. 岡雅彦〔ほか〕編『江戸時代初期出版年表〔天正 19 年～明暦 4 年〕』(勉誠出版、2011 年)、166 頁。
4. 宮川真弥「覆刻版における版面拡張現象の具体相―匡郭間距離比較による版種弁別法確立のために」(『斯道文庫論集』53、2019 年 2 月)参照。
5. 「歴代譜」(『日蓮宗事典』日蓮宗宗務院、1981 年)の「貞松山 蓮永寺」の項(1287 頁)参照。
6. 和田恭幸「近世初期版本の刊記をめぐって」(『調査研究報告』19、1998 年)、10-11 頁を参照。
7. 貞松文庫の蔵書に見られる書入れの内、年号の記載を伴う「日富」「日遇」の署名による推定。
8. 椎名宏雄「『緇林警訓』の文献史的考察」(『印度仏教学研究』59 卷 2 号、2011 年 3 月)、624 頁。
9. 井上隆明『近世書林板元総覧(改訂増補)』(青裳堂書店、1998 年)、614 頁参照。
10. 現物未見。岡雅彦・和田恭幸「近世初期版本刊記集影(五)―補遺篇」(『調査研究報告』21、2000 年)、182 頁の影印による。原本の所蔵館は駒沢大学附属図書館。
11. 「歴代譜」(『日蓮宗事典』日蓮宗宗務院、1981 年)の「貞松山 蓮永寺」の項(1287 頁)によると、15 世の一玄院日閑(字、沾爾)は元禄 3 年 12 月 17 日に 81 歳で没したとある。承教寺所蔵の「飯高歴代考略 附系譜(竖帳)」(享保～元文年間頃〈1716～41 頃〉)の翻刻では、「日閑 字恬尔 一源院 貞松」(東京都大田区史編さん委員会編『大田区史 資料編 寺社 1』東京都大田区、1981 年、799 頁)とあり、日富の書入れや貼紙と字(あざな)の表記が一致する。
12. 吉田剛「北宋代に於ける華嚴興隆の経緯―華嚴教学史に於ける長水子璿の位置づけ」(『駒沢大学禅研究所年報』9、1998 年)、195 頁参照。
13. 岩瀬志妙寄贈本(法受山妙嚴寺旧蔵書)。本通信 9 号「岩瀬志妙寄贈本 簡易目録②」参照。
14. 柳田聖山「禅籍解題」(西谷啓治・柳田聖山編『禅家語録 II (世界古典文学全集 第 36 卷 B)』筑摩書房、1974 年)、481 頁。
15. 川瀬一馬『五山版の研究』(日本古書籍商協会、1970 年)、298 頁。
16. 鎌田茂雄〔ほか〕編『大蔵経全解説大事典』(雄山閣、1998 年)、「善悪因果経」(柿市里子項目執筆)参照。
17. 中野是誰の没年などは安藤武彦「出版書林中野道伴伝関係資料」(『日本古書通信』375、1975 年 8 月)参照。
18. 中田祝夫校注・訳『日本霊異記(新編日本古典文学全集 10)』(小学館、1995 年)、72-73 頁。



表紙資料紹介

扶桑隠逸伝 3 巻 A76/105

不可思議〈元政〉撰。3 冊。26.8×16.6cm。京、村上氏〈村上勘兵衛〉、寛文 4 年[1664]

日本の隠者の名から 70 名あまりを選び出し、漢文の伝と絵図を加えた書。作者の元政は日蓮宗の僧で、和歌や漢詩をよくした。本書は 9 行本だが、同じく村上勘兵衛より 11 行本が刊行されている。9 行本の挿絵は 11 行を覆刻したものと考えられている（島原泰雄編『深草元政集 第 3 巻』古典文庫、1977 年）。この 11 行本は伝存数が 9 行よりも少ない。古書資料館には全部で 5 点の『扶桑隠逸伝』があるが、11 行本は、9 行本の上中巻と取り合わされている下巻 1 冊（281/F 72）のみである。

表紙の図は、『徒然草』で知られる兼好法師の図。



立正大学古書資料館通信

第 1 4 号

令和 6 年 7 月 10 日発行

編集・発行 立正大学図書館 品川学術情報課
〒141-8602 東京都品川区大崎 4-2-16
TEL : 03-3492-6615
HP : <https://www.ris.ac.jp/library/>